

大濠公園能楽堂開館35周年記念 プレ公演

郷土の新作能 宝生流

桧原桜

ひばるざくら

和歌に託した花への想い



久貫 弘能



野村 万禄



辰巳満次郎



佐野 登

能「桧原桜」……久貫 弘能
狂言「萩大名」…野村 万禄
仕舞「西行桜」…辰巳満次郎
仕舞「簀」……佐野 登



※写真はイメージです。

2021年

12月11日 [土] 13:00開演
[12:15開場]

アクロス福岡 イベントホール

[福岡市中央区天神1-1-1-B2F]

【全席指定】一般 3,000円 / 学生 1,500円 (税込)

※20名以上の場合は団体割引あり

- 大濠公園能楽堂 092-715-2155
- アクロス福岡チケットセンター 092-725-9112
- エムアンドエム 092-751-8257
- チケットぴあ 0570-02-9999 [コード 507-882]

チケット
発売日
2021年
9/3 (金)
10:00~

お問い合わせ&お申し込み: 大濠公園能楽堂 092-715-2155 (日~金 9:00~17:00)

※2021年12月末まで改修工事のため大濠公園能楽堂での直接購入はできません。(通信販売のみ取り扱い) <http://www.ohori-nougaku.jp>

注意事項

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとって開催いたします。
ご来場の皆さまのご協力をお願いいたします。
※やむを得ない事情により出演者・番組が変更となる場合がございます。
※上演中の写真撮影、録音・録画は固くお断りいたします。
※客席内での飲食はできません。

主催

公益社団法人能楽協会
大濠公園能楽堂
西日本新聞社

郷土の新作能「**桧原桜**」
和歌に託した花への想い

番組

仕舞

簾

西行桜
クセ

佐野 登

辰巳満次郎

地謡

上野 能寛
武田 孝史
東川 光夫
石塚 尚寿

狂言

萩大名

大名 野村 万禄

太郎冠者

吉住 講

茶屋 吉良

博靖

後見

杉山 俊広

(休憩)

「**桧原桜**」について

白坂 保行

桧原桜の精

丸野 朝子 (小学3年生)

荒川 志季 (小学3年生)

塚本 希花 (中学1年生)

三浦 智輝 (中学3年生)

久貫 弘能

大隈言道 御厨 誠吾

桧原桜

桧原里の女・花守

里人 野村 万禄

後見

武田 孝史
東川 光夫

地謡

武田 伊左 松田 若子
葛野 りさ 山岡 晴美
内田 朝陽 石黒 実都

終演予定 15時40分

解説

狂言 **萩大名**

訴訟のため都に長逗留をしていた田舎の大名が、訴訟も終え国へ帰ることになりました。太郎冠者の案内で、萩の咲く庭を見物に出かけます。その庭の亭主は風流者で、来客に必ず一首歌を所望するそうです。大名は歌を詠んだことがあります。太郎冠者に「七重八重九重とこそ思いにしに十重咲き出る萩の花かな」という歌を教えてもらいますが、忘れてしまいます。太郎冠者はなんとか思い出させようとはしますが…。

能 **桧原桜**

筑前国那珂の郡に住む大隈言道は、桜をこよなく愛する歌人です。

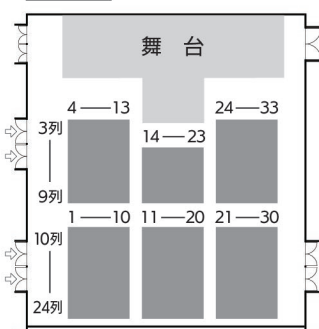
ある春の日、散る桜の花びらに誘われて桧原の里までやってきます。そこで一人の若い女と出会います。女は桧原の里のいわれと、桜の木に掛けられていた短冊のことなどを語り始めます。道を広げるために桜の木が伐採されることになったこと、その桜を惜しむ歌が木に掛けられ、多くの人がその歌の心に賛同し、同じく花を惜しむ歌を詠んだこと、そして桜の木が切れずに残ったことなどを語ります。語り終えると女は姿を消します。夜になり月光に桜が舞い散る中、桜の精が現れます。それを見守るように花守も現れ、共に舞い遊びます。

いつしか空が白み、朝日が福岡の町を照らし始めると、桜の花びらは山々や海を越え世界中へ花の心を伝えてゆくのでした。

「桧原桜」は平成22年に九州大学大学院の学生により発案され、南区の協力で福岡市在住の能楽師により作られました。題材は福岡市民にとって思い入れの深いものです。能の中で桜の精を演じる子どもたちが着る長絹(装束)は博多織で織られました。から十まで全て福岡で作られた能です。「桧原桜」が市民の想いで残った話を能で語り伝えます。当初は観世流で作られたものを、今回は宝生流に書き直し上演します。

【アクロス福岡 イベントホール】

座席図



交通アクセス

アクロス福岡へお越しの際は公共の交通機関をご利用ください。



○地下鉄「天神駅」から徒歩5分(16番出口直結)
○バス停「アクロス福岡・水鏡天満宮前」から徒歩0分

2022年公演情報

宝生流特別公演

2022年 1月29日(土) 13:00 開演 大濠公園能楽堂

・指定席(椅子席) 5,000円
・自由席(桟敷席) 4,000円

チケット発売日
10月8日(金)

居囃子「翁」……宝生和英
能「安宅」……東川光夫
舞囃子「西王母」…石黒実都
狂言「田植」……野村万禄